第65回川崎市文化芸術振興会議（摘録）

１　会議名　　川崎市文化芸術振興会議

２　日　時　　令和６年２月２２日（木）午前９時３０分～午前１１時３０分

３　場　所　　川崎市役所第４庁舎４階第７会議室

４　出席者
（１）委員　９名　犬飼委員、小川委員、川崎委員、佐藤（敦子）委員、三瓶委員、保延委員、藤嶋委員、能崎委員、田村委員

（２）事務局（市民文化局市民文化振興室）白井室長、土屋担当課長、笹川担当係長、畠山担当

５　議　事
（１）令和６年度文化アセスメント事業について

６　公開・非公開の別　　公開

７　傍聴者　　０名

【議事内容】
川崎議長　議題の（１）「令和６年度文化アセスメント事業について」事務局から説明していただきます。

（事務局から、資料１「川崎市文化芸術振興会議について」、資料２「今後の開催スケジュール案」、資料３「令和６年度文化アセスメント事業について」説明）

川崎議長　ありがとうございました。事務局の方から丁寧に何をやるかといったところから、来年度のスケジュールと来年度のアセスメント事業の候補についてご説明がございました。こちらにつきまして、ご意見ご質問等ございましたら、まずは挙手でご意見いただければと思います。

佐藤（敦子）委員　３事業とも大変興味深い候補をご紹介いただいたと思います。が、実は川崎市の公共施設総合調整室が、ホールのあり方検討専門部会を令和３年度から令和５年度まで開催しまして、川崎市の文化施設、いわゆるホールについて、今後、維持管理費用が増えていくので、将来的に選択と集中し、全てを残していくということが公費の考えから現実的ではないので、稼働の状況等をアセスメントして評価をするという専門委員会があって、私はそちらのメンバーを務めました。その際に、プラザソルも当然のことながらかなり詳細に分析をさせていただきました。ホールのあり方検討専門部会の方で行ったアセスメントはかなり詳細なもので、稼働率ですとか、利用率ですとか、利用目的ですとか、今後予想される修繕費用の見積もりですとか、といったものもあるので、

既にそこでかなり分析をしているということを考えますと、そちらの評価が残っているという観点からは、当該委員会でまたさらに重ねて評価をする必要というか、優先順位として、最初にお示しをいただいた２つのものとは少し違ってくるのかなと思った次第です。

川崎議長　ありがとうございます。

能崎委員　今のお話で質問してよろしいでしょうか。

川崎議長　それでは能崎委員お願いいたします。

能崎委員　結果的にどうなったのですか。

佐藤（敦子）委員　ホールのあり方検討専門部会の報告書は公表されているのですが、川崎市立の施設のそれぞれの稼働の状況等について、やはり稼働の高い所とそれほど高くない所、それから採算が取れているところと採算が取れていないところ等々について、客観的にお示しをして、委員会の報告書としてはそこまでということになっておりまして、今後、それぞれについてどういう取捨選択していくのかということについては、都度、パブコメ等も取りながら川崎市さんの方で判断をしていく。その判断のひとつの材料となるような評価書を作成して終了という形になっております。

能崎委員　ご説明いただいたときにプラザソルというものがあると初めて知ったのですが、正直びっくりしたんですね。なぜかというと、昨年ミューザの横にホリプロさんがスペルノーヴァを作られたんですね。スペルノーヴァの内覧会があったので私、呼ばれて行ってきたのですが、ほぼ同じ様な施設なんですよ。スペルノーヴァはいわゆる芸能事務所さんがやって、私はホリプロさんも仕事でよく知っているので、ここでこの施設を作って営業的にやれるのですかというのを直接質問したんです。ホリプロさんは、正直言ってうちがやっても難しいと。はっきり言って難しいですと、ここの施設については。ではなんでやるのかと聞いたら、ある程度実験的にやるということで。それで、ほぼ同じような施設があそこにも存在することを知って、正直びっくりしてしまって、今はアセスメントをされて結果はまだですということだったので、どういう判断をされるのかわかりませんけれども。

佐藤（敦子）委員　その判断については川崎市さんがしていくということではあるんですけれども、プラザソルは実はパンレットにもあるように客席が可動式で、非常にすごい施設だったりもするんです。これを維持管理していくというのもかなり費用のかかるものではあったりもする。ただ、先程川崎市さんが設営したという風に言ったのですけれども、こちらは川崎市さんのものではないですよね。

事務局　そうですね。お借りしている施設です。

佐藤（敦子）委員　そうですよね。お借りしている施設にはなるので、個別に、修繕のスケジュール等もそれぞれの施設によってタイミングがばらけてくるというところはありますので、川崎市とし

ては、例えば、ミューザ川崎のように大きな箱に対するニーズも非常に高い一方で、市民のみなさんの文化活動の観点からするとやはり小規模、中規模のホールというのも皆さんの活動の観点からすると必要だったりもするので、稼働が高いホールが一番いいというわけでは必ずしもないことです。

その意味からすると、川崎市アートセンターの劇場施設についても、ホールのあり方検討専門部会のところで稼働の状況ですとか、収支等については対象にはなっています。一方で指定管理の方々が、文化芸術基本法ですとか、最近ですと障害者による文化芸術活動の推進に関する法律ですとか、劇場法ですとか、近年、こういった文化施設に関連する文化行政の方針というのがかなり変わってきています。それに見合う形での指定管理者の活動が行われているのかというところは、ホールのあり方検討専門部会としてはあくまでも箱物としての評価しかやっておりませんでしたので、そちらの観点からすると、川崎市アートセンターというのが、当委員会として活動状況ですとか、今後の指定管理としての団体を選んでいく上での指針を出すというのは、意味のあるアセスメントになってくるのかなという風に思いました。

川崎議長　ありがとうございます。事務局から補足はありますか。

事務局　まず、プラザソルは市民文化振興室の所管で文化財団に貸しているのですが、プラザソルは稼働率がコロナ前はほぼ１００％ですごく回っていて、コロナになって下火になって、今は１００％に戻らない状況で７０％くらいです。ホリプロさんのスペルノーヴァなのですが、出来たときにうちのイベントで使おうかなと思って、お金はいくらですかと聞いたら、平日５０万円、土日だと１００万円という、とてもじゃないけど使えないですねとなった。多分地域の方、プラザソルは演劇をやっている方、プロというよりはアマチュアとか大学生とか、そういう方が使っていらっしゃって、金額的にもある程度抑えられているので、回っていると思っています。あそこも賃借料相当の補助金は出しているが、運営費は自主的に回しているので、そこまで市としてお金はかけていなく、稼働率も高い。ホールのあり方検討委員会は、地域ごとにまとめられているんですかね。

佐藤（敦子）委員　ぜひ確認いただきたいですけれども、委員会としてはかなり細かい数字を見ました。

事務局　少し余計なことかもしれませんが、アートセンターは劇場とミニシアターがある公共施設では結構珍しい施設なんですね。それで、ミニシアターの方は稼働率はすごい高い。劇場の方はそこまでいかず低くて、プラス、せっかく劇場とシアターがあるんだから、何かコラボした事業をやればいいんじゃないという話もある。年１回とか、そういうのはあるんですけれど、施設の機能がなかなか活かされていないかなというのが、私個人の感想です。

それと、先ほどの図面ですと３階にコラボレーションスペースがあって、そこは無料の場所で、市民の方は行くことができて、イベントも多分やりたければ出来るんですけれども、そこも活かしきれていなくてですね、高校生が宿題やったりとか、という施設の使い方になってしまっているので、もう少し文化芸術振興会議の委員のみなさまからこういう使い方がいいんじゃないかとか、こういう風にやると、もっと市民の方がきてくれるのではないかとご提案いただけると非常に効果的かなと思って候補としてあげてみました。市民ミュージアムに関しては平成３０年度に対象として

おり、次の年度に被災してしまって、今 INACTION というかたちで、新しいミュージアムが出来るまで何もしないのではなくて、今までの市民ミュージアムの活動を引きつつ、新しいミュージアムにつないでいこうというので今動いているのですが、しばらく修復ばかりだったので去年くらいから外の展示会とか動き始めていて、ただ、動き始めたばかりなので、令和６年度に見ていただくよりももう少し２、３年後に見ていただくと効果的かなという風に個人的には思っています。

川崎議長　ありがとうございました。どちらかというと、そういったところが具体的に政策に活かしやすく、また次の指定管理者の募集の中でこの我々の提言だと見込みやすいといったスケジュール感というところのご説明がありました。また、市民ミュージアムの事業については、まだ動いたばかりで軌道に乗る前の段階ですので、この段階でやってどれくらい効果があるかというのはクエスチョンマークがつくかと思われます。やっている内容についてはすごく意味深いことかとは思いますが、現段階でやるよりももう少し課題なりが見えてくる段階での方が効果的なのではないかといったところかと思います。ラゾーナの方はどちらかというと商業的な意味合いが強いですかね。あまり政策的というよりは。

事務局　そうです。貸館的な意味合いが強いです。

川崎議長　というところですので、なかなか色々ご意見はあるかと思いますが、今の段階でやる優先度は高いかというと必ずしもそうではないのではないかといったところかと思われます。他の委員のみなさまから何かご質問等ございますでしょうか。よろしいですかね。ということですので、委員会としては、アートセンターの管理運営事業についてを今後対象として１年間じっくりと審議等させていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

（異議なし）

はい、ありがとうございます。それでは令和６年度の文化アセスメントの対象事業といたしまして、候補１にありますアートセンター管理運営事業についてということで選定されたということで、こちらの議事については終了させていただきたいと思います

【報告事項】

川崎議長　それでは続きまして報告事項について、事務局から説明をお願いします。

（事務局から、資料４「第３期川崎市文化芸術振興計画（案）（概要版）」、資料５「第３期川崎市文化芸術振興計画（案）（本編）」について説明）

川崎議長　ありがとうございます。では、田村委員お願いいたします。

田村委員　私が地域で色々な文化活動をやっていて、コロナの問題もあるんですけど、市民館の大きなホールや会議室をコロナワクチンの接種会場にしてしまったというのはかなり大きなマイナス面を残したのではないかと思います。

それから、施設についてですが、先ほど佐藤委員の方から色々なラゾーナの話とか色々聞いたんですけど、私は活動しているところが高津区なので中部なのですが、川崎の細長い地形、いわゆる

街道的、鉄道もそうですが全部通過してしまうというね、そういうことで言いますと、施設が北部の方と南部の方に偏るというか、バランスがあまりよくないんじゃないかと思う。要するに足らない。新百合ヶ丘の方面も含めて、あちらの方が施設的にも充実してきたのと、それから南部の方はミューザ川崎とかプラザソルとか色々あるんですけど、中間がなかなかないというところですね。もっと言いますと北部から南部に文化芸術的なもので移動するというのがしんどいんですよね。身近じゃない。そういう面があるのではないかと思います。

それから、舞台とかステージとか、そういったところが問題にされがちなのですが、展示会場も非常に少ないと思います。アートガーデンかわさきが一番大きいわけですけど、あのくらいの規模のものが各地区に必要ではないかなという風に思います。市民館の多くには市民ギャラリーというのがあるのですが、規模が小さいと思うんですね。例えば、高津区の場合だと、２２万人くらい人口があるんですけど、毎年高津区美術公募展というのをやるのですが、ものすごく出品が多いんですよ。かなり水準も高いんですね。もう少し広いところがあればと思うんだけど、南部の大きな展示場を使うかというと、地元からそこまで見に行くというのが少ないんですよね。だから、そういった面ではやはり施設的に不足しているのではないかなというのがある。このいわゆる計画案を何度も読ませていただいたのですが、その辺の観点が少し弱いのではないかなという気がしました。

能崎委員　私も全く同じことを感じていました。この資料をいただいたときにコメントがあればということだったのでコメントも書いて送らせていただいたんですけれども、おっしゃる通り川崎市というのは細長くてかつもちろん南武線は走っておりますけれども、基本的に多分どこの地域の方も小田急線、田園都市線それから京浜東北線、東横線を使って東京に通っている方がもともと多い地域で横に動いたりするわけじゃないので、それを例えば成果指標を出されていますけれども、これを川崎市という単位でこの数字を取られても全く意味をなしていないと思うんですね。例えば、その地域ごとで取るとこの数字って全く違う数字になると思うんです。おっしゃられたように高津区には、ほぼ文化施設がないので、この地域で取るとその数字は多分目を覆うばかりの数字になると思うんです。ですから、今すぐ施設を作れとかいうことよりも、もう少し、地域が横になっているので、色々なものについて川崎はもともとそういう地域だという観点で施策もしてほしいし、それから、指標とか情報収集するというときに、必ずその地域的な特性を入れてほしいと思うんですね。ものを見るときに。それを、川崎市というひとつのくくりで全部を語られると正直言って非常に話がアンマッチを起こすというか、住んでいるところの人によって多分感覚が全く違っている。だから、まず地域が横に長いので色々な切り口を見るときに必ず地域的な観点を入れてほしい。個別にはここの地域にはあるよとかないよとかそういう話にはだんだん下りては来ると思うんですけれども、その前にもともとの計画なので、計画の中には必ずそういう地域性というのを盛り込んで欲しい。それが戦略１の身近に文化芸術に触れ、親しめる環境づくりに向けた取組だと思うんですね。ですから、この施策全体でその観点を入れてほしいというのはこれを見て私が思ったことです。

川崎議長　ありがとうございます。川崎市の地形的特性として、東京や横浜と隣接しているので通勤、通学等はそちらが多いというのは、川崎市の方も重々把握していることかと思います。地域性については考えていないということではなくて、様々な計画で地域のことについては語られておりますので、語られていないということではないと思っております。そういう意味で、この文化芸術

振興計画での地域についての考え方について、簡単にご説明いただけますでしょうか。

事務局　文化芸術振興計画の中での地域の考え方については、基本目標１の文化芸術や地域の特性・資源を活かしたまちづくりの中で、それぞれの施設、地域の特色を活かした文化資源を活用していくという風に定めているところではございます。ただ、先程委員さんの方からご説明のあった地域の特色を考えた取組、施策に反映していくことが必要ではないかというお話もありましたので、そちらについては戦略１の中で各庁内検討委員会の中でお話して、今後そのような委員さんからの意見を取り入れた、実際に取り組んでいる所管課の方の意見をまとめて全庁共有していき、それぞれの取り組みに取り入れていければという風に、今のご意見いただいて考えたところでございます。

施設の方は、おっしゃる通り色々な南北に偏っていたり、真ん中になかったりとか、色々な活動をするにあたって、こうゆうものが欲しいという色々なニーズがあると思います。なかなかそのホールのあり方とかでも検討されたとは思うんですけれども、財源的な問題とか、色々な問題、課題があるところで今後はどういった形でそういったニーズに対応するかというのをこの計画の中でも、一応基本目標３の施策２の取組３で文化芸術活動を行う環境の拡充の中で既存の施設、文化施設だけでなく学校とか教室とか他の公共施設、もしくは民間施設等でそういう場所ができないかというのも今後検討していかなければならないと感じているところでございます。今いただいた意見等はやはりどこでもそういうお話等はありますし、かと言って財源の方のお話もありますので、その辺りのバランスとか、効果的・効率的な部分も考えて、今後取組を進めていかなければいけないということで、こちらの方の目標には取組を記載しているところでございます。

川崎議長　ありがとうございます。では、佐藤委員お願いいたします。

佐藤（敦子）委員　川崎市の肩を持つわけではないんですけれども、ホールのあり方検討専門部会のところでホール関係についての偏在の状況、後は人流、市民のみなさんのニーズとのミスマッチがどのくらいあるのかということについて、かなり詳細なデータを川崎市としては分析をされていて、ご指摘の部分については行政の方としてはかなり認識をされているという印象を受けております。ただ、じゃあここが少ないからここに箱を作ろうというようなことが非常に難しい。もしくは、こっちにはあるけどあまり使われていないから畳んでしまおうかということが簡単にはやはり出来ないということもあって、今事務局がご説明されたように、民間との役割分担というようなことで、どんなことが出来るのだろうということを現在もご検討されていると思いますし、そこは継続的に施策としてどういう風に取り組んでいこうかということはやられているという印象を受けました。展示会場については、ホールのあり方としては議論にはなっていなかったのですが、おそらく同様のかたちでご認識をされているんだろうなと思った次第です。

田村委員　佐藤委員はホールのあり方検討専門部会のチームの一員として調査等されたと思うのですが、他の都市との比較などはしなかったのでしょうか。

佐藤（敦子）委員　比較はしました。横浜ですとか東京の隣接している自治体との状況ですとか、実際川崎の施設も他地域の方々が利用されているケースもかなりあったというようなことまで含めて分析の対象にはなっていました。

田村委員　その結果はどうだったのでしょうか。

佐藤（敦子）委員　やはり偏在というか、稼働の高いところもあれば、地域差が活動状況についても起きているということは、認められておりますので、じゃあそれに対してどうゆう風にしていこうかということを施設を見ている部署の方々と継続審議をされておられるという理解です。

田村委員　市民レベルで文化活動をやっていて圧倒的に多い意見は会場が少ないということです。だから高津区で言いますと、他と人口規模もほぼ同じような調布とか藤沢とか他の都市と比べると公共施設が４分の１くらいしかないんです。例えば、高津区で言うと図書館が一つ。分室が一つなんですね。調布は５つある。藤沢市も５つくらい図書館がある。要するに絶対数が足らない。

それから、横浜や東京に比べると民間の施設も少ないですよね。他都市にはトッパンホールとか色々ホールがありますが、川崎市は民間の施設も少ない。川崎信用金庫のホールとか会議室とか、そういうのも相当少ないんですよね。私は、現在の川崎市の文化芸術の色々な会場というか、ハード面の支えで言いますと、人口が１００万人から１１０万人規模の時代の規模じゃないかと思います。今はもう１５０万人超えている。だから、基本的に施設が足らないところで、有効活用をどうしたらいいかということをやっても、基本的に改善されない。私は２０人くらいに配ったんですよ。ホール等に対する意見はありますかと。そうしたら、こんなの出す気がしないと。出したところでどうなるのと。結局、基本的に絶対数が足らないところで今のところをこうして欲しいって言ってもやはり限界があるのではないかというのが多くの文化芸術活動をやっている人の意見ですね。だから、そこがやはり欠けているのではないかなという気がする。

もう一つ、図書館の問題ですね。図書館もやはり相当大きな文化芸術の分野ではないかと思います。もう少し図書館を活用した色々な文化芸術活動の推進ですかね。この計画を見ると、図書館も必要なんじゃないかなと思いました。

川崎議長　ありがとうございます。では、犬飼委員お願いいたします。

犬飼委員　前回も申し上げたのですが、基本目標１施策１の文化芸術を活かしたまちづくりの推進というところに、音楽によるまちづくり、映像によるまちづくりという風にあります。川崎市には美術をやっている人が結構大勢いますが、この全体を見ても美術という言葉が全然入っていないように思います。やはり世界を見ても、芸術というと音楽と美術という２つが上にくる。美術という言葉が全然入っていないというのは、美術に携わる人間としては少し不満というか、そのような感じがするのですが、その辺りについてはどうなのでしょうか。

川崎議長　ありがとうございます。ご質問については後ほど伺います。全体については、報告というか、実はこの川崎市が総合計画や都市計画マスタープランの方でそういった施設等については、計画を立てておられて、それぞれの地域での意見聴取などは上位計画の方で行われておりますので、ここでは文化施設の不足の話をするのは避けることにいたします。全体の方向としては、一つの建物で色んな機能という、つまり複合化なり多機能化といったところで対応せざるを得ないというのが川崎市を含めて今、日本の公共施設の現状だと思います。その中で民間にいかにして投資をして

もらうかといったところで、このアート・フォー・オールですとか、音楽のまちとか映像のまちというコンセプトを発信している。

先程、スペルノーヴァの話もありましたが、当初は平たい公園を作る予定だったんですけれども、あそこで公園を作っても、すごく隅の方にあるので危ないということで、映像と音楽のまちというコンセプトに、少し賑わいを作るということで民間の投資を促すような方法を川崎市は取られた。そのように、公共施設として箱をつくるというのは、もうなかなか難しい時代になっていますので、その中でどうやってみなさんの要望を汲み取れるような多機能なものを組み込めるかといったところが多分、基本目標１施策１の文化芸術を活かしたまちづくりの推進というところに組み込まれているはずですが、美術についての考え方については、事務局の方で簡単に説明をしていただけますでしょうか。

事務局　川崎市では音楽のまちかわさき、映像のまちかわさき、というのが今まで進めていたこともあって、施策の方には特出しさせていただいているところではございますが、美術については、市民ミュージアムの方でかわさき市美術展を行ったりですとか、まちなかミュージアムということで市域の多くの場所で見られる取り組みを検討して進めていくことを考えています。市民ミュージアムの取り組みが具体的になったときに、美術の方ももう少し強めに、取り組んでいますと言えるかなと考えているところでございます。後は、パラアートの方でも、新本庁の展望フロアでパラアートの展示をする等、各取り組みで進めていくこととなっております。なので、計画について、もう少しミュージアムや岡本太郎美術館の方で少し美術の方を強めていきたいと考えております。

後は、各施設、展示出来る場所の確保がなかなか難しい中で、他の文化施設等が利用出来ないか等をこれから模索していき、それをどのように発信するのかを含めて検討していくという風に考えているところでございます。なので、美術の方に少し計画の方には記載が足らなかったかもしれないのですが、市としては蔑ろにしているわけではなく、そういったところで取り組んでいきたとは考えているところでございます。

小川委員　基本目標１施策１取組３にアート・フォー・オールという風に書かれていますし、私はアートの中に美術が含まれるものとして受け取っています。川崎市は音楽・映像・美術を広く施策の中に盛り込んでいるという印象は受けました。後、図書館と文化芸術というお話もあったと思います。私も図書館が大好きで先のお話には共感する部分もあるのですが、図書館は教育委員会の管轄ですよね。

事務局　そうです。

小川委員　ですので、こういった芸術分野には今回盛り込む形にはなっていないのかなという風にみています。

田村委員　管轄が違うから盛り込まれていないのですか。

小川委員　今回はそのように思ったのですが。

川崎議長　ありがとうございます。

能崎委員　一つだけよろしいでしょうか。

川崎議長　時間の関係もあるので、端的にお願いします。

能崎委員　私が申し上げたいのはクリティカルな問題ですが、お金の問題とかも色々あるので、どこになにを作れとかそういうことではなくて、この計画というのは思想なので、ここに必ず地域を配慮するということを言葉として入れて欲しいということなんですよ。その先々は、言葉としてご説明いただいたのはわかるんですね。そうゆうことなんだろうとは思うのですが、ここはやはり思想が出てくるところなので、ここには地域を加味するという言葉を出して欲しいということ。それがお願いなんです。

川崎議長　ありがとうございます。

佐藤（敦子）委員　第３期の計画は非常に素晴らしいものであり、先程申し上げた国の文化政策の内容が反映されたもので、お示しいただいた計画の内容がアセスメントの時にそれに見合ったものなのかというような突き合わせ的なことも今後はやっていくのがよいのかなと。過去にはそういった基本計画のこれはどの部分についている、どの部分が足りていないというような形の評価をあまりして来なかった印象があるので、今年度の議論の時にはぜひこの計画の目的と、かなり詳細に施策までステップを踏んでお示しいただいているので、そこでの紐づけの議論が出来るといいのかなと思いました。

川崎議長　わかりました。ありがとうございました。今の点は最後のところにこの委員会でやると書いてあるところかと思います。

佐藤（敦子）委員　後１点だけ、ホールのあり方検討専門部会の方で、先程の文化施設の偏在ですとか、利用状況について公表しております。川崎市ホールのあり方報告書というので見ていただくと、今後のスケジュールもそこに書かれております。令和７年度に向けて最適化方針を川崎市としては作っていかれる方向ということでございますので、問題意識はかなりあるようで、今後議論されていくのではないかと思います。

川崎議長　ありがとうございます。議論は尽きないところではございますが、ここは報告事項ということですので、特にここで何かを決めるということではございませんので、この辺で閉めたいと思います。この他何かみなさまからこれだけは申し上げたいですとか、特に本日まだご発言のない先生方におかれまして、これだけは申しておきたいという点がございましたらお願いいたします。

（なし）

川崎議長　ありがとうございます。本日の議事については以上になります。